

日本語の複文における「ため」の用法の分析

(統語論と意味論を通して)

ヘラ スリウラン

0142051



マラナタキリスト教大学

文学部日本文学科

バンドン

2008

SINOPSIS

日本語の複文における「ため」の用法の分析

序論

「ため」という語にはさまざまな用法があるが、文脈によっては、その意味が異なっているようである。

この「ため」がいかなる意味を有しているか分析するのが本論文の執筆の目的である。それぞれの「ため」がいかなる意味を有しているかを分析する際には、いろいろな本から「ため」の付いた文を取り出してかい解紗することにする。

本論

「ため」の意味を理解するため、以下にいくつかの文を例文として取り挙げ、解紗する。

1. 家を買うため、朝から晩まで働く。(NY:40)
2. 太郎が金をもうけるために太郎が働いている。(NJ12:10)
3. 山田さんはパソコンを買うためにアルバイトをしている。(NJ12:9)

上記の三つの文から見ると、主文及び副文の主語が同じ者で感情を持った人間、生物である。そして、「ため」に関係づけられた前と後節の意味的關係を見ると、ためには、「目的」という意味が含まれているのである。

一方、以下の例文では、「ため」がどのような意味、またぶんでは、いかなる要素が含まれているか見てみよう。

1. 彼に話したためにみんなに知られてしまった。
2. (母親が) 子供を食べさせるために母親働いている。
3. 雨が少ないために今年は米が不作だ。

上記のそれぞれの文を見ると、主文と副文の主語が同じものではなくても、可能である。また、主語は、生物でも無生物でも構まわれないようである。

上文の「ため(に)」の意味は、前節と後節との関係から見て、
、
原因。理由を表している様である。

本論

「ため」を意味から見て分析してみに結果、次の結論を引き出すことができる。

1. 文の構造から見て、「ため」は副文後に付く。
2. 「ため」は、「目的」を表す意味と、原因。理由を表す意味の二つ意味を有している。

DAFTAR ISI

LEMBAR PENGESAHAN	
KATA PENGANTAR	i
DAFTAR ISI	iv
BAB I PENDAHULUAN	1
4. Latar Belakang Masalah	1
5. Rumusan Masalah	5
6. Tujuan Penelitian	5
7. Metode Penelitian dan Teknik Kajian	5
8. Metode Penelitian	5
9. Teknik Kajian	5
10. Teknik Penelitian	6
11. Organisasi Penulisan	6
BAB II KAJIAN TEORI	7
2.1 Pengertian Sintaksis	7
2.1.1 Pengertian Kalimat	8
2.1.2 Kalimat Tunggal dan Kalimat Majemuk Bahasa Jepang	9
2.1.2.1 Kalimat Tunggal Bahasa Jepang	10
2.1.2.2 Kalimat Majemuk Bahasa Jepang	10
2.1.3 Klausa	11
2.1.3.1 Klasifikasi Klausa	12
2.1.3.1.1 Klausa Subordinat	12
2.1.3.1.2 Klausa Koordinat	14
2.2 Pengertian Semantik	14
2.2.1 Semantik Leksikal	16
2.2.2 Semantik Gramatikal	16
2.3 <i>Tame</i>	17
2.3.1 Meishi	20
2.3.2 Keishiki Meishi	21

2.5 Fungsi <i>Tame</i>	21
BAB III ANALISIS	30
3.1 Analisis Pemakaian 「ため」 yang menyatakan 目的 ”tujuan”	30
3.2 Analisis Pemakaian 「ため」 yang menyatakan 原因。理由 “sebab, alasan.”	43
BAB IV KESIMPULAN	53
4.1 Simpulan	53
4.2 Saran	55
SINOPSIS	vi
DAFTAR PUSTAKA	x
DAFTAR KAMUS	xii
LAMPIRAN DATA	xiii
KLASIFIKASI DATA	xxvi
RIWAYAT HIDUP	xxxiv